

## 再話(story retelling)を取り入れた授業改善

授業改善委員会

### 1. 目指したいこと

全ての高校で目標とするべき方向性は言語活動の充実を意識した授業改善である。しかし、どのようなやり方で生徒に英語を使わせれば良いか困っている先生も多い。ここでは、比較的簡単に、生徒が英語を使える場面をより多く設定できる授業方法として、再話(story retelling)を紹介したい。

### 2. 再話とは

再話活動とは、読んだり、聞いたりした内容について、自分で話したり、書いたりする活動である。再話活動を授業で行った場合、どのような効果が期待できるかであるが、以下に先行研究をいくつか紹介する。

Hazel Brown and Brian Cambourne(1987)は、再話が付随的に、ほとんどの無意識のうちに、その文章構造、語彙、書き方の決まりを身に付けることができると述べている。文章構造、語彙、書き方の決まりなどが定着する”Linguistic spillover”が確認できると主張している。Morrow(1985)は、母国語について再話が、学習者のテキスト理解を手助けすると報告している。一回限りの再話では、効果は薄いだが、頻度を増やすことと、話す内容を手引きすることによって大きな効果を生むことを実証している。Swain(1995)は、アウトプットの効用として、言えることと、言えないことの差に気づく、自分の持っている言語知識が正しいかどうかを試すことができる、相手と社会的、対話的な関わりが、言語知識を内在化させることができると主張している。

このように、再話についてはアウトプットとしての側面だけでなく、言語理解の定着にも効果が期待できることが興味深い点である。以下に再話のやり方を簡単に説明する。

### 3. 再話の方法

a. 内容理解(構造理解を含む)と音読活動が終わっている。

b. 閉本して<sup>1</sup>、教科書の内容を英語でペアに話す。

この時、教師が難しいと判断すれば、英問英答<sup>2</sup>を行い、再話につなげる。

c. 言えなかった部分を確認し、再び、教科書の内容を英語で話す。

---

<sup>1</sup> 教科書を見ながら再話を行わせると、学習者は英文を読むだけになる可能性がある。この場合、音読と変わらない活動になり、再話の目的が達成できない。

<sup>2</sup> 英問英答の際、何を、どのように、問うかは重要な問題である。何を、については、次の3つの発問が挙げられる：

① 事実に関する発問(Do Japanese people like Ramen?)

② 推論を要する発問(ここでは適切な例を挙げるができない)

③ 自分のこと(意見)をきく発問(Do you have favorite Ramen restaurants?)

再話の補助という視点から考えれば、発問は①を多めにするとうまいであろう。また、どのように問うかについては、疑問文で聞くよりも、肯定文を使って聞くほうが学習者の負担は減る。以下の発問例では、同じ内容のことを聞いているが、学習者のレベルを考慮しながらbのように聞くと良いだろう。

a. Why do many people wait for a long time to eat ramen?

b. Many people wait for a long time to eat ramen. Why?

d. 教科書の内容を英語で書く。

・注意すべき点

a. 再話は一度だけで終わらずに、何度も行う。

インプットとアウトプットの行き来を行うことで、インプットの必要性が生まれる。その結果、インプットの質が高まる。

b. できなくても続ける。

言えることと、言えないことの差に気付いたり、自分の持っている言語知識が使えるかどうかを試したりすることが、言語知識を内在化させることにつながる。

c. 英問英答を効果的に使う。

アウトプットのための再話が難しい場合は、閉本させた状態で英問英答を行う。英問英答が再話へのヒントとなる。

#### 4. 実際の授業における生徒の様子

筆者が、自分のクラスで再話を行った時の生徒の様子であるが、最初は発話量が少なく、発話時間も30秒程であった。しかし、日々の授業で、再話を習慣化し、音読や英問英答で練習をさせていく中で次第に発話量が増え、心理的なストレスも減ってきたように見えた。最終的には、3分程英語を話す姿が見られ、発話量の伸びが見られた。あくまで、著者の主観になるが、再話をするすることで、その前段階の音読練習の質が高まっていることが観察された。

#### 5. まとめ

繰り返しになるが、再話はアウトプット活動の要素だけでなく、内容理解を深め、言語材料の定着を促すインプットとしての役割も果たす。日々の授業の中で再話を取り入れ、生徒が英語を主体的に理解し、発信できる時間を増やしていければ、より良い英語授業につながるのではないかと考える。

#### 参考文献

Hazel, B. and Brian, C. (1987). *READ AND RETELL*. Heinemann Portsmouth, NH.

Morrow, L. M. (1985). Retelling stories: A strategy for improving young children's comprehension, concepts of story structure, and oral language complexity. *Elementary School Journal*, 85, 647-661.

Swain, M. (1995) Three functions of output in second language learning. In G. Cook & B. Seidlhofer (Eds.), *Principles & practice in applied linguistics: Studies in honor of H. G. Widdowson* (pp.125-144). Oxford: Oxford University Press.